

ヨシヤ
聖徒伝 155

「行いで示す 主への信仰」

列王記 II 23:1~30 歴代誌 II 35章

ヨシヤと過越の祭り

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 全イスラエルのきよめ 列 II 23:1~19

II. 過越の祭り 歴 II 35:1~12

III. ヨシヤの死

列 II 23:24~30 歴 II 35:15~27

IV. まとめと適用

主に従い、行いを伴う信仰を生きよう



十戒が納められた契約の箱



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

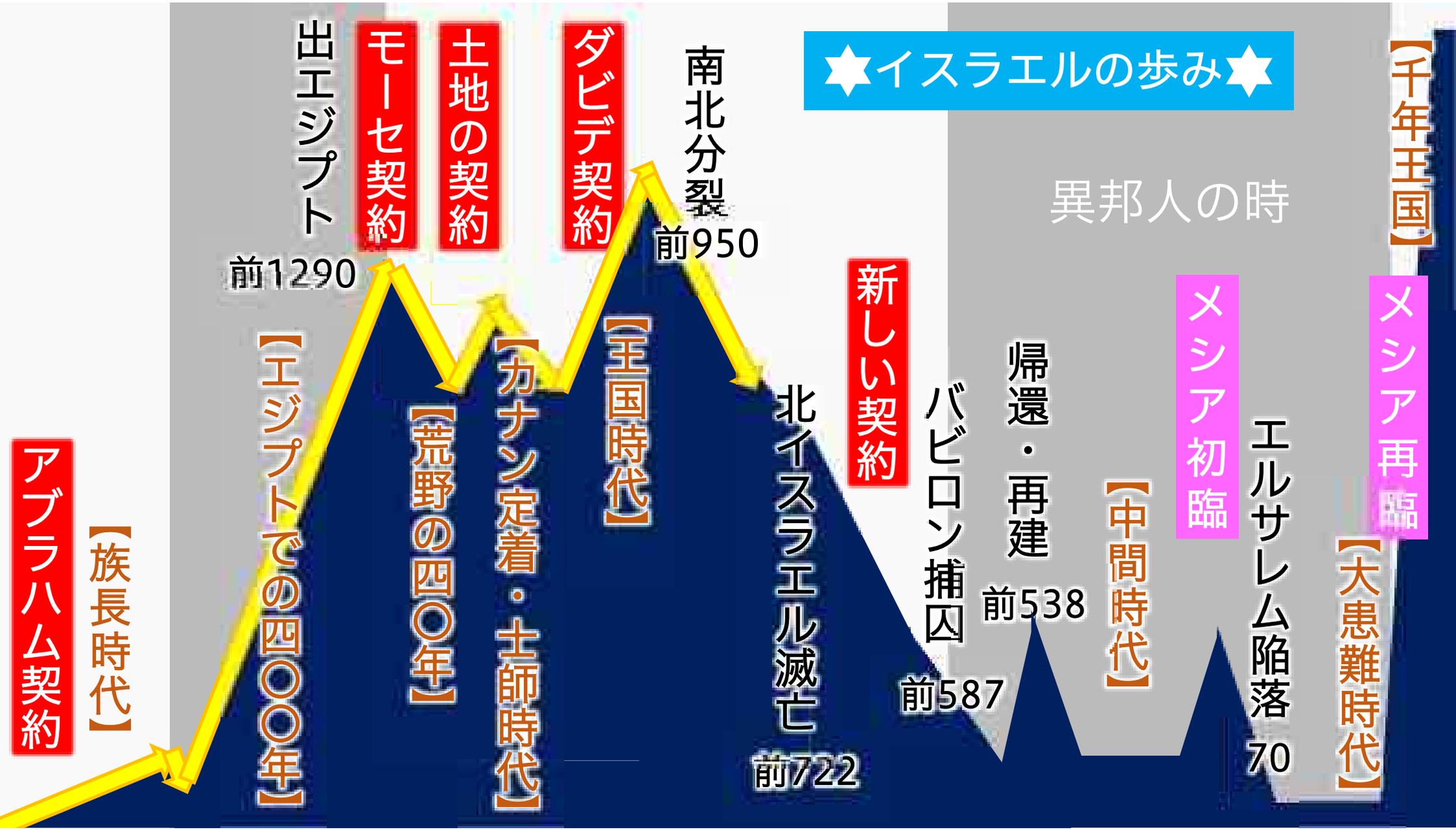
神の約束こそが
その時代の守り

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂

前950

ダビデ契約

【王国時代】

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

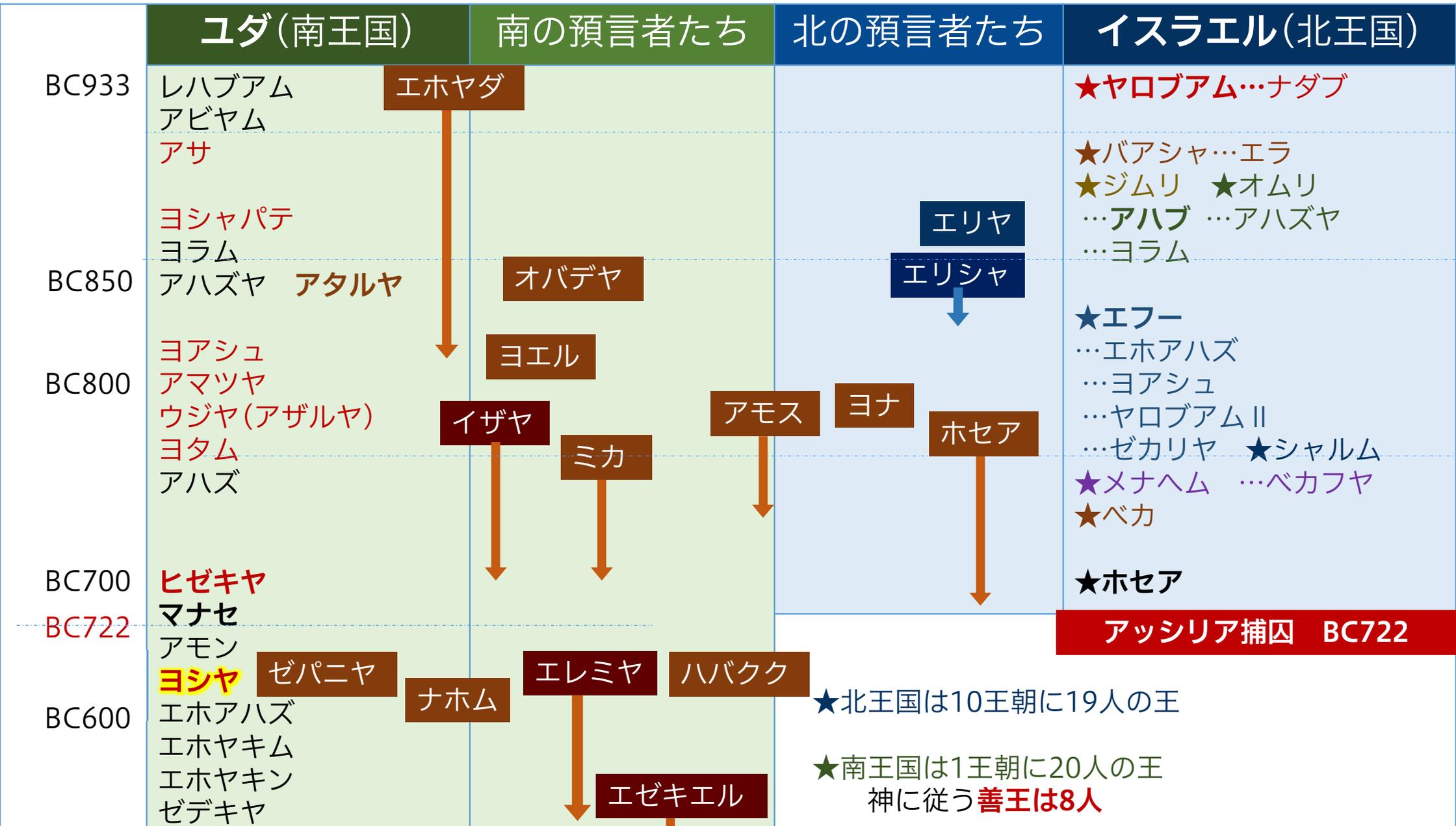
モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト 前1290

【族長時代】

アブラハム契約



北王国
イスラエル

アッシリア捕囚
BC722年

南王国
ユダ



預言者の空白時代

ヒゼキヤ ♡ 29年
イザヤ
ミカ

マナセ ☠ 55年

アモン ☠ 2年
エホアハズ 3ヶ月
ヨシヤ ♡
エホヤキム ☠ 11年
エホヤキン ☠ 3ヶ月
ゼデキヤ ☠ 11年
エレミヤ
ハバクク
ゼパニヤ

バビロン捕囚



Ⅰ. ユダとイスラエルのきよめ

列王記第二23章1～19節

サマリアの都の跡

列王記 律法の朗読 列二23:1~2

王は使者を遣わして、ユダとエルサレムのすべての長老たちを彼のところに集めた。

王は、ユダのすべての人々、エルサレムのすべての住民、祭司と預言者、および下の者から上の者まで、すべての民*とともに【主】の宮に上り、【主】の宮で見つかった**契約の書***のことばをすべて彼らに読み聞かせた。

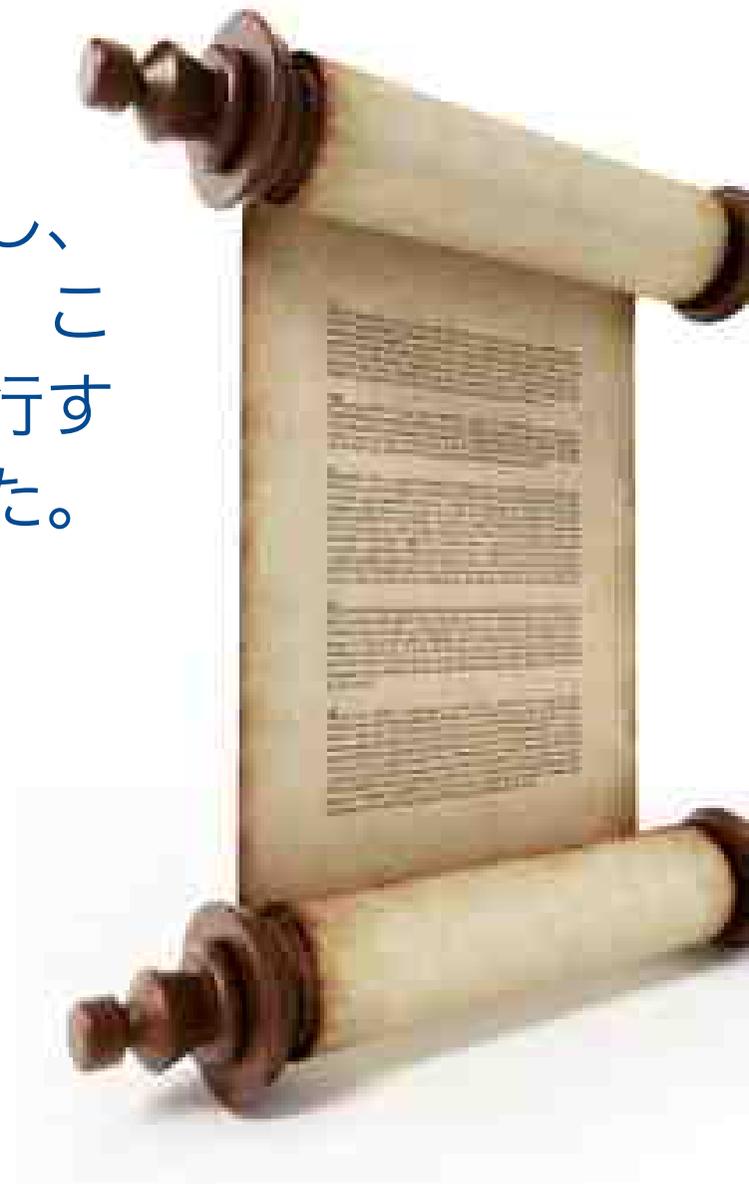
*南王国中のすべての者たちが、**律法***の朗読を聞くために集まった。



列王記 再契約 列二23:3

それから王は柱のわきに立ち、【主】の前に契約*を結び、【主】に従って歩み、心を尽くし、いのちを尽くして主の命令と証しと掟*を守り、この書物に記されているこの契約*のことばを実行することを誓った。民もみなこの契約*に加わった。

*シナイ契約(モーセの律法)の再契約。



列王記 宮きよめ 列二23:4

王は大祭司ヒルキヤと次席祭司たち、および、入り口を守る者たちに命じて、バアルやアシェラや天の万象のために作られた祭具をことごとく

【主】の神殿から運び出し、エルサレムの郊外、キデロンの野* でそれらを焼き、その灰をベテル* へ持って行った。

*キデロンの谷(野)…エルサレムとオリーブ山の間の谷。ゴミ捨て場のようにもなっていた。

*ベテル…ヤロブアムが金の子牛の祭壇を築いた。
滅んだ北王国の偶像礼拝の中心地。



列王記 偶像の破壊 列二23:5～6

彼はまた、偶像に仕える祭司たちを取り除いた。ユダの王たちが任命して、ユダの町々やエルサレム周辺の高き所で犠牲を供えていた祭司たちである。バアルや太陽や月や星座や天の万象に犠牲を供える者たちも取り除いた。

彼はまた、アシェラ像を【主】の宮からエルサレム郊外のキデロンの谷に運び出し、それをキデロンの谷で焼いた。それを粉々に砕いて灰にし、その灰を**共同墓地***にまき散らした。

*偶像の祭司たちの墓だろう。

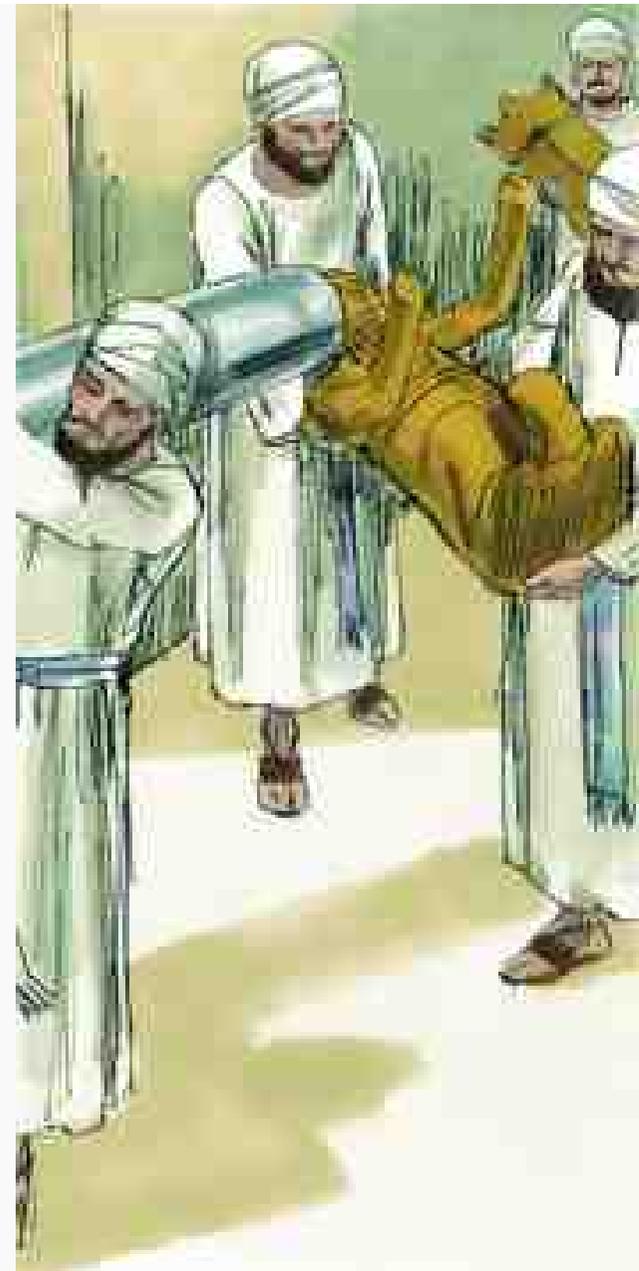


列王記 南王国全体のきよめ 列二23:7~8

さらに、【主】の宮の中にあった神殿男娼の家を打ち壊した。そこでは、女たちがアシェラ像のために覆いを織っていた。

彼はユダの町々から祭司たちをみな連れて来て、祭司たちが犠牲を供えていたゲバからベエル・シェバに至るまで*の高き所を汚し、門にあった高き所を打ち壊した。それは町の長ヨシュアの門の入り口にあり、町の門に入る人の左側にあった。

*ゲバ(南王国の北端)、ベエル・シェバ(南端)



列王記 高き所の祭司 列二23:9~10

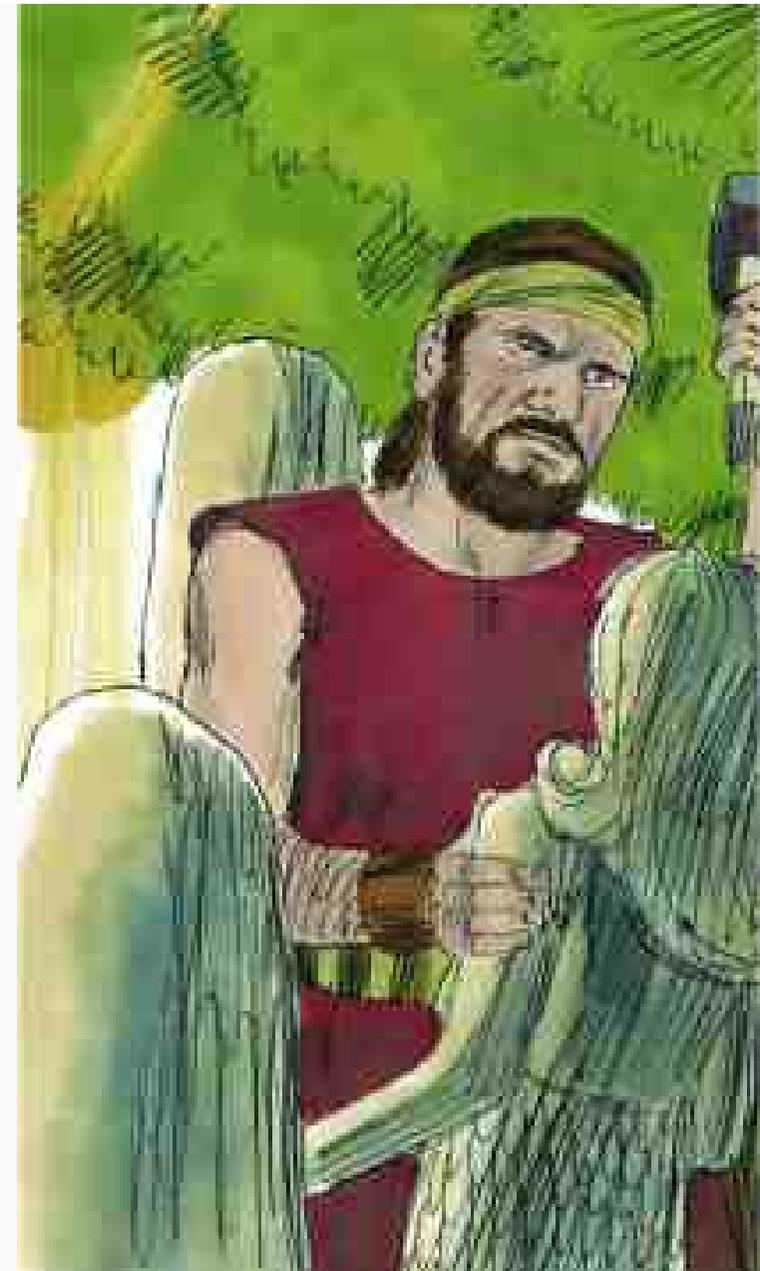
高き所の祭司たちは、エルサレムの【主】の祭壇に上ることはなかったが、その兄弟たちの間で種なしパンを食べていた*。

彼はベン・ヒノムの谷*にあるトフェトを汚し、だれも、自分の息子や娘に火の中を通らせてモレクに献げることをのしないようにした。

*過越祭を模した独自の儀式を行っていた？

*アハブが偶像神の人身供養を行っていた。

➔忌まわしい地として、後代、ベン・ヒノムが、地獄(ゲヘナ)を象徴するように。



列王記 太陽神礼拝 列二23:11

それから、ユダの王たちが太陽に献納した馬を、【主】の宮の入り口、前庭にある宦官ネタン・メレクの部屋のそばから取り除き、太陽の車を火で焼いた。

- 神殿男娼、宦官の部屋、太陽神礼拝…。
偶像礼拝に浸されきっていた神殿。
- ヨシヤが実権を握り、改革を実行するまで、
偶像礼拝者たちがここまでのさばっていた。
→ 晩年のマナセの悔い改めの影響の限界。



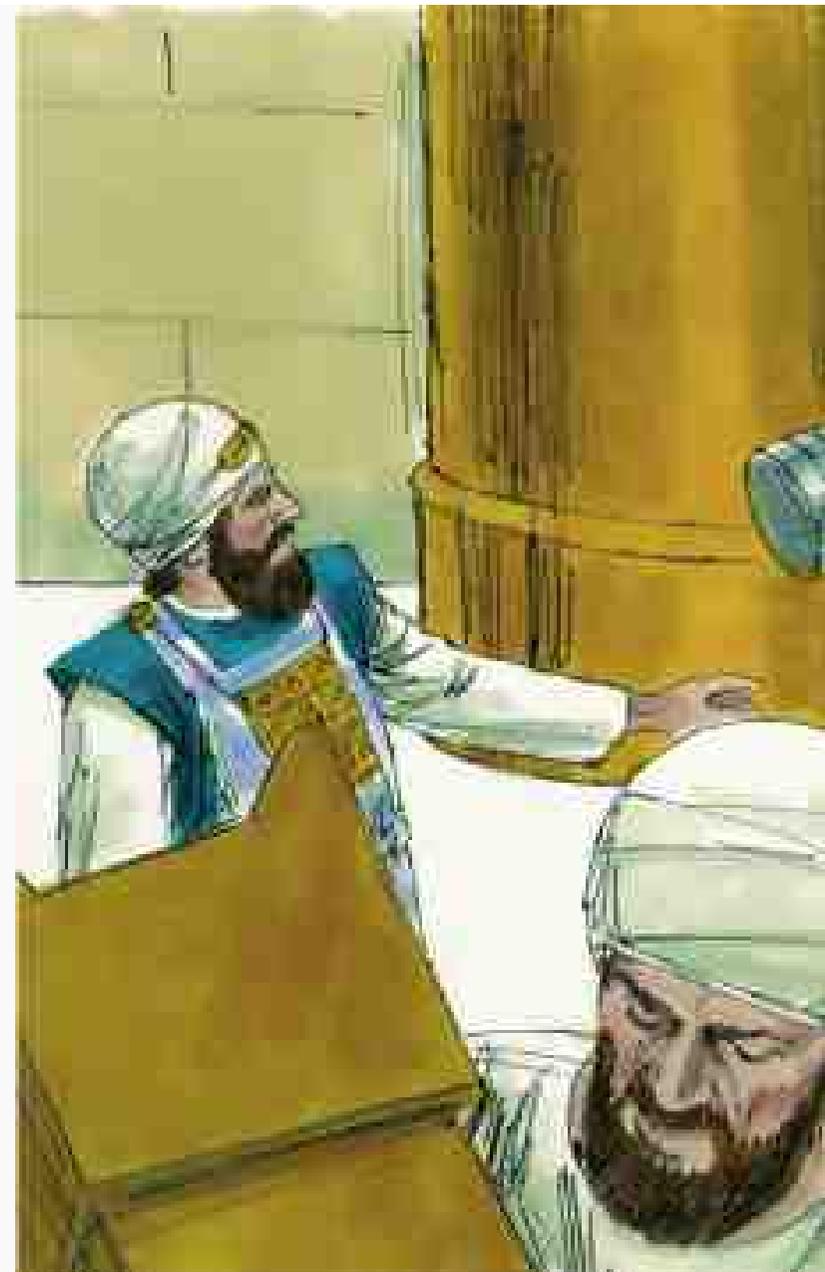
末期的なエルサレムの
状況がよく分かる

列王記 悪王たちの悪の痕跡 列二23:12

王は、ユダの王たちがアハズ*の屋上の部屋の上に造った祭壇と、マナセ*が【主】の宮の二つの庭に造った祭壇を、そこから外して打ち壊し、砕いた。そうして、その灰をキデロンの谷に投げ捨てた。

*南王国の二大悪王

→偶像礼拝を強要し、神殿まで汚し、人身供養まで行った。



列王記 高き所 列二23:13~14

王は、エルサレムの東、破壊の山*の南にあった高き所を汚れたものとした。これは、イスラエルの王ソロモン*が、シドン人の忌むべき女神アシュタロテ、モアブの忌むべき神ケモシュ、アンモン人の忌み嫌うべき神ミルコムのために築いたものであった。また、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、その場所を人の骨で満たした*。

*オリーブ山!! 悪魔をも指す(エレミヤ51:25)

*南北分裂を招いたソロモンの罪の痕跡が一掃。

*二度と使えないよう、徹底して汚した。

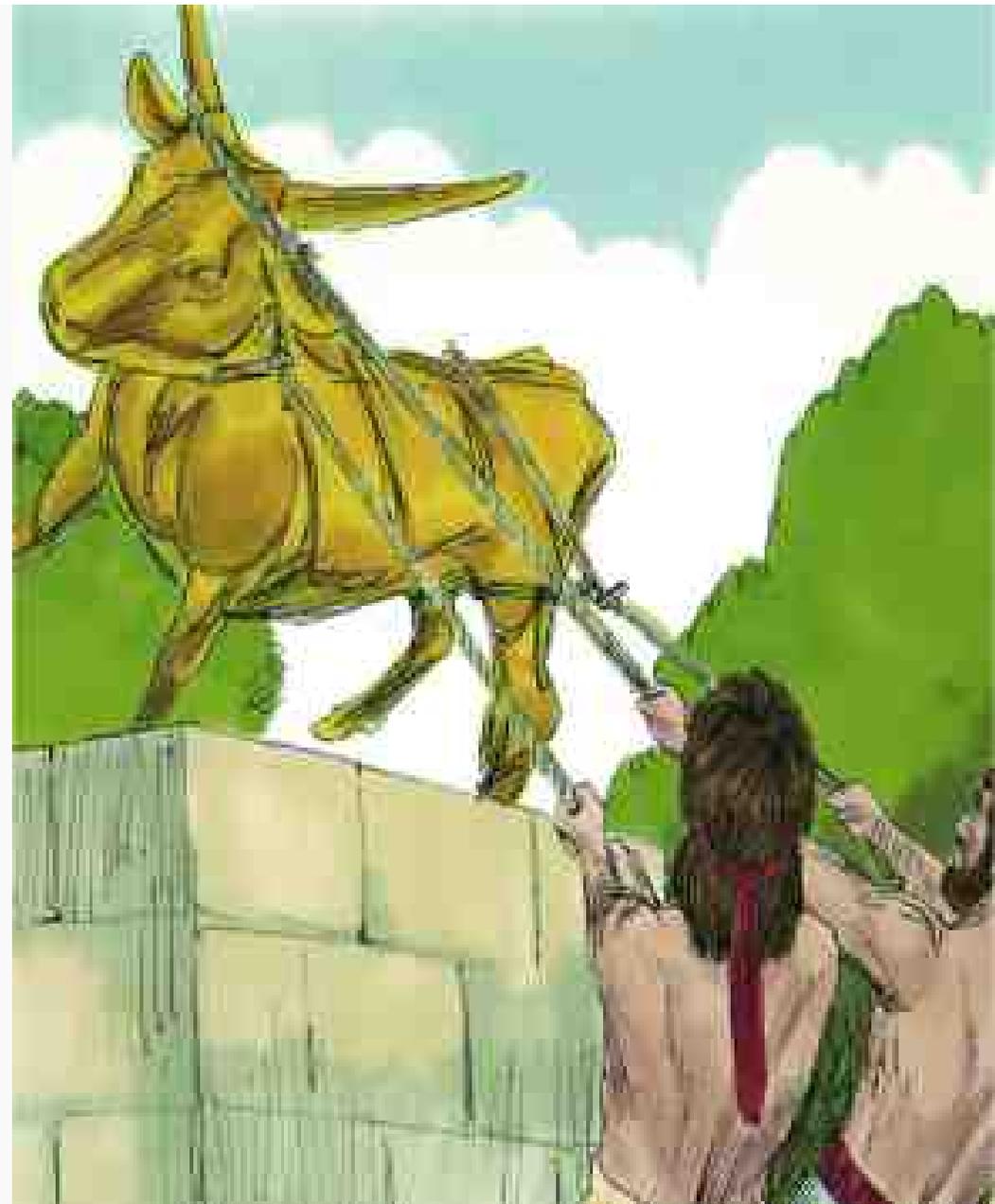


列王記 北でのきよめ 列二23:15

さらに彼は、ベテルにある祭壇と、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムが造った高き所*、すなわち、その祭壇も高き所も打ち壊し、さらに高き所を焼いて粉々に砕いて灰にし、アシェラ像も焼いた。

*北王国の初代ヤロブアムが築いた金の子牛がついに壊された。

→誰もなしえなかったきよめを成し遂げたヨシヤの功績



列王記 成就した預言 列二23:16

ヨシヤが振り向くと、山の中に墓があるのが見えた。そこで彼は人を遣わしてその墓から骨を取り出し、それを祭壇の上で焼き、祭壇を汚れたものとした。かつて、神の人がこのことを預言して叫んだ【主】のことばのとおり*であった。

*南王国からやってきた無名の預言者が
ヤロブアムに告げた預言(1列13:2)
→約300年後に成就した。



列王記第一 13章2節

すると、この人は【主】の命令によって祭壇に向かい、これに呼びかけて言った。

「祭壇よ、祭壇よ、【主】はこう言われる。

『見よ、一人の男の子がダビデの家に生まれる。その名はヨシヤ。彼は、おまえの上で香をたく高き所の祭司たちを、いけにえとしておまえの上に獻げ、人の骨がおまえの上で焼かれる。』」

個人名まで告げた預言が、300年越しに完全成就した

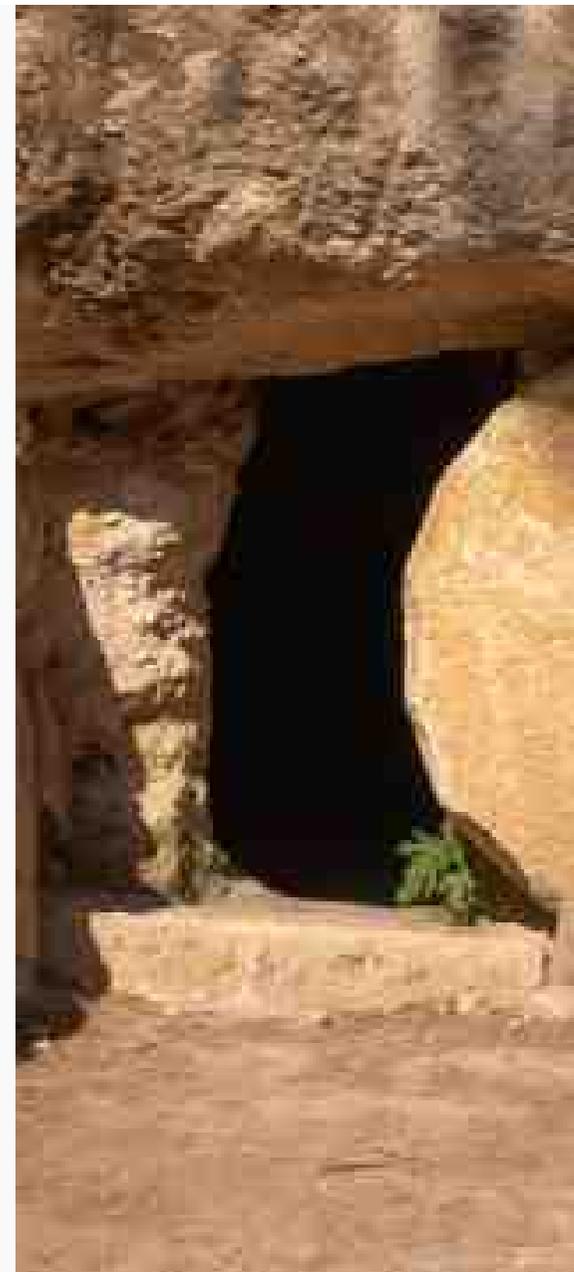
列王記 神の人の墓 列二23:17

ヨシヤは言った。「あそこに見える石碑は何か。」すると、町の人々は彼に答えた。「ユダから出て来て、あなたがベテルの祭壇に対してされたこれらのことを預言した神の人の墓*です。」

*主の命令に背き、北王国で食事を口にしたため、獅子にかみ殺されてしまった。

■ 300年も伝えられた預言があったにも関わらず、背きを重ねて北王国は滅ぼされた。

➡ 悔い改めの行いが伴わないなら空しいだけ。

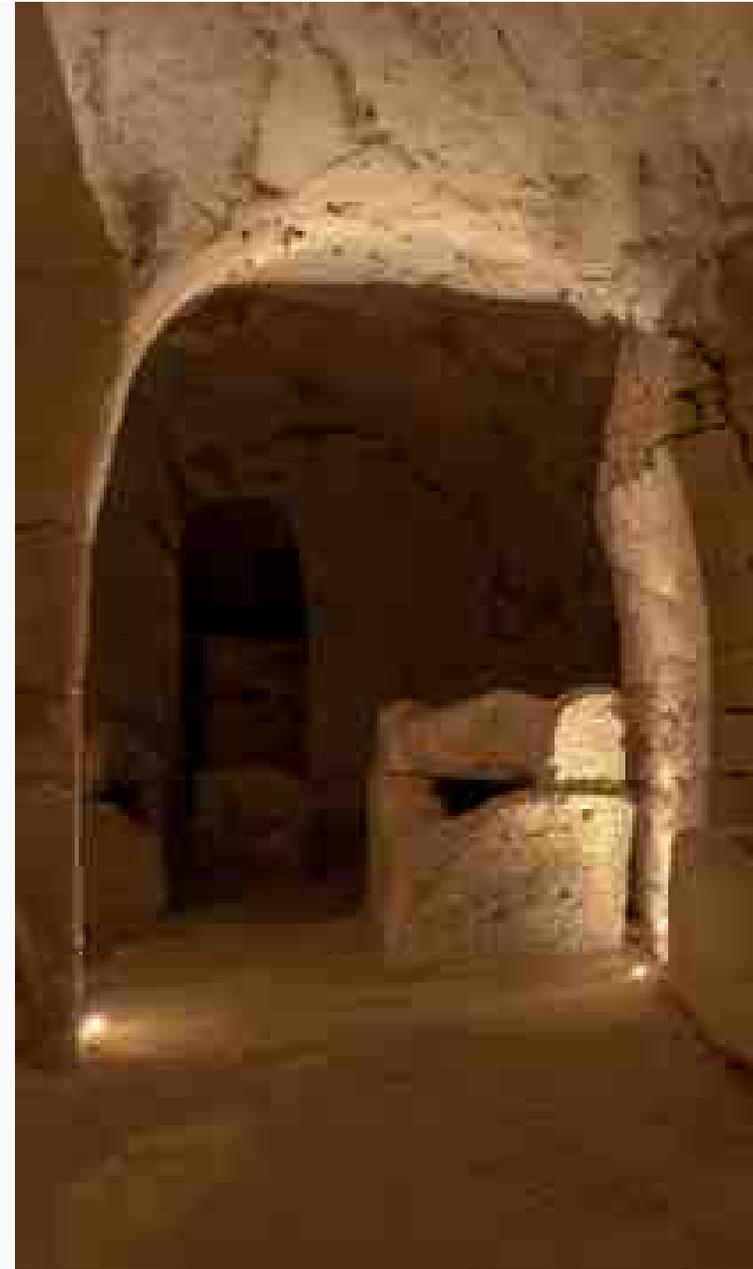


列王記 預言者の墓 列二23:18

王は言った。「そのままにしておけ。だれも彼の骨を移してはならない。」そこで人々は彼の骨を、**サマリアから出て来たあの預言者***の骨と一緒にそのままにしておいた。

*神の人をだまして食事を食べさせた預言者。
神の人を葬り、自分の遺体も同じ墓に葬る
ように命じた。

- 墓を曝いて骨を燃やす → 永遠の裁きを示す。
- 神の人を騙した預言者は、悔い改めて救われたのだろう。



列王記 高きところ 列二23:19~20

ヨシヤはまた、イスラエルの王たちが造って主の怒りを引き起こした、サマリアの町々の高き所の宮もすべて取り除き、彼がベテルでしたのと全く同じことを、それらに対しても行った。

彼は、そこにいた高き所の祭司たち*をみな、祭壇の上で屠り、その祭壇の上で人の骨を焼いた。こうして、彼はエルサレムに帰った。

*北王国の滅亡後も偶像に仕え続ける者たちに
肉体の死と永遠の裁きが同時に下された。





II. 過越の祭り

歴代誌第二35章1～12節

エジプトの最初の過越

列王記 過越の祭り 列二23:21～23

王は民全体に次のように命じた。「この契約の書に記されているとおり、あなたがたの神、【主】に、**過越のいけにえ**を献げよ。」

実に、さばきつかさたちがイスラエルをさばいた時代以来、イスラエルの王たちとユダの王たちのどの時代にも、このような**過越のいけにえ**が献げられたことはなかった。ただ、ヨシヤ王の第十八年に、エルサレムでこの**過越のいけにえ**が【主】に献げられたただけであった。

*ヨシヤの過越のいけにえの詳細は歴代誌に!!

➡神殿と祭儀に重点を置くのが歴代誌



歴代誌 祭司 歴二35:1~2

さて、ヨシヤはエルサレムで【主】に過越のいけにえを献げた。人々は**第一の月の十四日***に過越のいけにえを屠った。

彼は祭司たちをその任務に就かせ、彼らを力づけて、【主】の宮の奉仕に当たらせた。

*律法が定めた通りに



歴代誌 王の命令 歴二35:3

王は、全イスラエルを教え導く、
【主】に聖別されたレビ人たちに言った。

「**聖なる箱***を、イスラエルの王ダビデの子ソロモンが建てた宮に据えなさい。もはやあなたがたはそれを肩に担ぐことはない*。今、あなたがたの神、【主】と、その民イスラエルに仕えなさい。」

*契約の箱 …他に移されていた？

*嗣業の土地と結びついた本来の約束。

➔移されることはないが、破壊される。



歴代誌 レビ人の奉仕 歴二35:4~5

あなたがたは、イスラエルの王ダビデの文書とその子ソロモンの書きつけのとおり*、父祖の家ごとに、組分けにしたがって準備をしなさい。

あなたがたの兄弟である、この民の者たちが属している父祖の家の区分にしたがって、聖所に立ちなさい。レビ人にとって、一族の分があるようにしなさい。

*ダビデがレビ人を組分けし、ソロモンが、さらに神殿の奉仕体制を整えた。



歴代誌 過越のいけにえ 歴二35:6~7

「それから、過越のいけにえを屠り、身を聖別し、あなたがたの同胞のために準備をして、モーセを通して示された【主】のことばのとおりに行いなさい。」

ヨシヤは民の者たちに、群れの中から子羊とやぎの子を提供した。これらはみな、そこにいたすべての人の過越のいけにえのためであった。その数は三万匹、牛は三千頭。これらは王の財産の中から出された。



歴代誌 過越のいけにえ 歴二35:8~9

王の高官たちも、民、祭司、レビ人のために、進んで献げるものを提供した。神の宮のつかさたち、ヒルキヤ、ゼカリヤ、エヒエルも、祭司たちに過越のいけにえとして羊二千六百匹、牛三百頭を与えた。

さらに、レビ人の長たち、すなわち、カナヤとその兄弟シェマヤ、ネタンエル、およびハシャブヤ、エイエル、エホザバデも、レビ人に過越のいけにえとして羊五千匹、牛五百頭を提供した。



歴代誌 過越のいけにえ 歴二35:10~11

奉仕の用意ができたので、王の命令のとおり
に、祭司たちはそれぞれの定めのある場所に、レ
ビ人はそれぞれの組分けにしたがって立った。
彼らが過越のいけにえを屠ると、祭司たちは
彼らの手から受け取った血を振りかけ、レビ
人は皮を剥いだ。



歴代誌 過越のいけにえ 歴二35:12~13

彼らは全焼のささげ物を取り分け、それを父祖の家の区分ごとに民の者たちに渡し、モーセの書に記されているとおり*に【主】に献げさせた。牛についても同様にした。

彼らは定めにしたがって、過越のいけにえを火で焼き、聖なるささげ物を、鍋、釜、平鍋で煮て、民の者たちすべてに急いで配った*。

*最も重要なのは律法通りに行うこと!!

*和解のいけにえ…神との交わりの食卓。

➔重要な部分は主に献げ、血抜きをした残りの肉は、民が食することをゆるされた。



歴代誌 祭司のささげ物 歴二35:14

その後で、彼らは自分たちや祭司たちのための用意*をした。アロンの子らである祭司たちは、夜になるまで、全焼のささげ物と脂肪を献げていたからである。そこでレビ人は、自分たちや、アロンの子らである祭司たちのための用意をした。

*主イエスの時代には、祭司のための献げ物は、翌日、種なしパンの祭りの一日目に行われた。

➡十字架にかけられたのが同時刻。



歴代誌 歌い手と門衛 歴二35:15

アサフの子孫である歌い手たちは、ダビデ、アサフ、ヘマン、および王の先見者エドトンの命令のとおりによりその役目に就いていた。また、門衛たちはそれぞれの門を守っていた。彼らのうちだれも、その奉仕を離れる必要がなかった。彼らの兄弟であるレビ人が彼らのための用意をしたからである。



歴代誌 過越祭と除酵祭 歴二35:16~17

こうしてその日、ヨシヤ王の命令のとおり
に、【主】の祭壇で過越のいけにえ*を献げ、
全焼のささげ物を献げるための、【主】への
奉仕の用意はすべて整った。

そこにいたイスラエルの子らは、そのとき、
過越のいけにえ*を献げ、七日間にわたって
種なしパンの祭り(除酵祭)*を行った。

* 第一月14日 …過越の祭り

15~21日 …種なしパンの祭り



最も重要な祭りが
律法の通り
忠実に実行された

歴代誌 過越のいけにえ 歴二35:18~19

預言者サムエルの時代以来*、イスラエルでこのような過越のいけにえが献げられたことはなかった。イスラエルのどの王も、ここでヨシヤが、祭司とレビ人、そこにいた全ユダとイスラエル、そしてエルサレムの住民とともに献げたような過越のいけにえを献げたことはなかった。ヨシヤの治世の第十八年に、この過越のいけにえが献げられた。

*ヨシヤほど、律法に忠実に、盛大に、過越の祭りを祝った王はいなかった。





Ⅲ. ヨシヤの死

Ⅱ 列23:24～30

Ⅱ 歴35:15～27

メギドの丘とイズレエル平原

列王記 律法に従って 列二23:24~25

さらにヨシヤは、霊媒、口寄せ、テラフィム*、偶像、それに、ユダの地とエルサレムに見られるすべての忌むべき物も除き去った。こうして、彼は祭司ヒルキヤが【主】の宮で見つけた書物に記されている律法のことばを実行した。

ヨシヤのようにモーセのすべての律法にしたがって、心のすべて、たましいのすべて、力のすべてをもって【主】に立ち返った王は、彼より前にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、一人も起こらなかった。

*守り神の偶像。古代には財産権示した。



申命記6章4～5節

聞け、イスラエルよ。

【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、
あなたの神、【主】を愛しなさい。

ヨシヤは、律法の核心を理解し、忠実に主を愛した

列王記 マナセの罪の深さ 列二23:26~27

それにもかかわらず、マナセが引き起こした主のすべての怒りのゆえに、【主】はユダに向けて燃やした激しい怒りを収めようとはされなかった。

【主】は言われた。「わたしがイスラエルを除いたのと同じように、ユダもわたしの前から除く。わたしが選んだこの都エルサレムも、わたしの名を置くと言ったこの宮も、わたしは退ける。」

- ユダへの裁きを確定させたマナセの罪の重大さ。
→ 悔い改めるにも、リミットがある。



歴代誌 エジプト王ネコ 歴二35:20

このようにヨシヤが宮を整えた後、エジプトの王ネコが、ユーフラテス河畔のカルケミシュで戦うため*に上って来た。そこで、ヨシヤは彼を迎え撃つために出陣した。

*エジプト軍はアッシリアと連合しバビロンと戦うために上ってきた。

■ヨシヤの死後、BC605、カルケミシュの戦いでバビロニアが勝利。

➡アッシリアの致命的敗北に!!



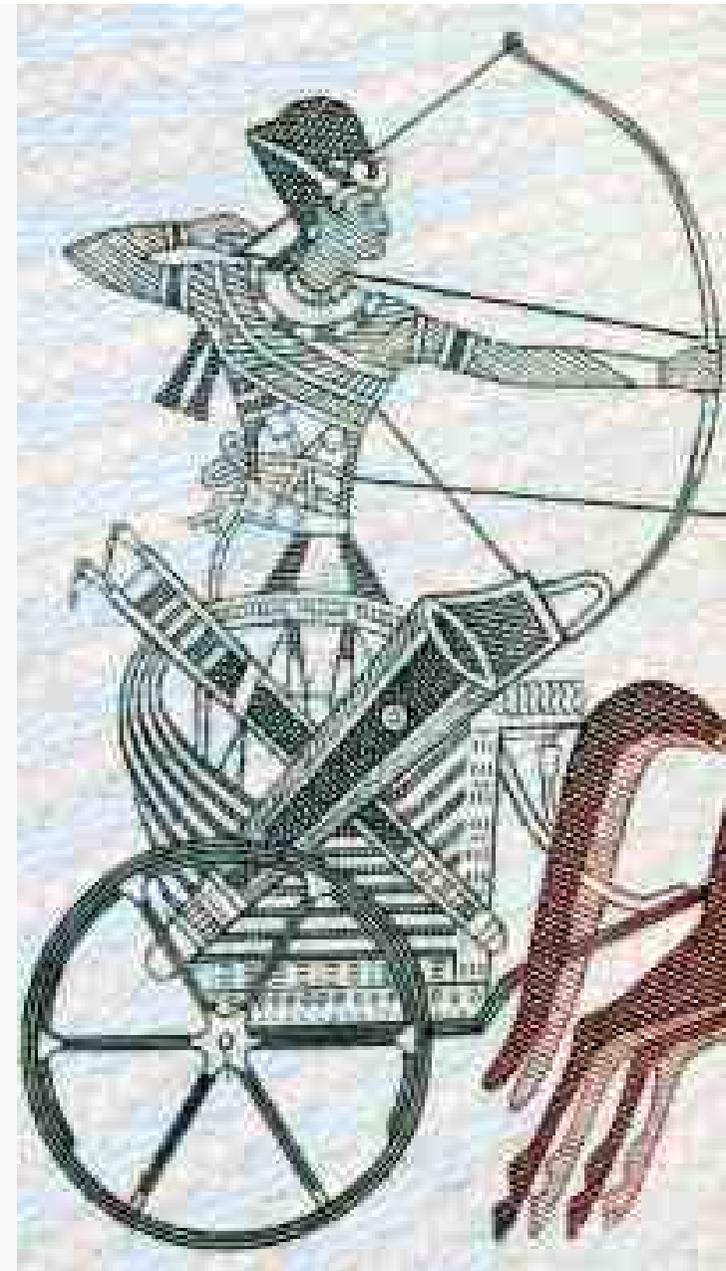
歴代誌 ネコの警告 歴二35:21

ところが、ネコは彼に使者を遣わして言った。「ユダの王よ、私とあなたと何の関係があるのか。今日は、あなたを攻めに来たのではない。私が戦っている王家に向かって行くところなのだ。神*は、早く行くように命じておられる。私とともにおられる神に逆らうことはやめよ。さもなければ、神があなたを滅ぼされる。」

*イスラエルの神が背後で働かれていた。

■エジプト・アッシリアがバビロニアに敗退

➔いよいよバビロニア捕囚が迫る。



歴代誌 メギドへ 歴二35:22

しかし、ヨシヤは身を引かず、かえって彼と戦おうとして変装し*、神の御口から出たネコのことばを聞かなかった。そして、メギドの平地*で戦うために出かけた。

*人間的策略。神への信頼の欠如の表れ。

*イズレエル平原。ハルマゲドンでは、反キリストの軍勢の集結地に!!



歴代誌 ヨシヤの死 歴二35:23~24

射手たちがヨシヤ王を射抜いた*ので、王は家来たちに言った。「私を運び出してくれ。ひどい傷を負ってしまった。」

家来たちは王を戦車から降ろし、彼が持っていた第二の車*に乗せてエルサレムに連れ帰った。彼は死に、その先祖たちの墓に葬られた。全ユダとエルサレムは、ヨシヤのために喪に服した。

*変装した戦いで射貫かれて死んだ

➔アハブと酷似したヨシヤの最期

*ヨシヤは自分の力を誇っていた？



歴代誌 ヨシヤ王の哀歌 歴二35:25

エレミヤはヨシヤのために哀歌*を作った。男女の歌い手は、ヨシヤのことをその哀歌で語り伝えるようになり、今日に至っている。これはイスラエルの慣例となり、まさしく哀歌に記されている。

「私たちの鼻の息、【主】に油注がれた者が、彼らの落とし穴で捕らえられた。私たちは「この方の陰なら、国々の中でも生き延びられる」と思っていた。哀歌4:20」

→ヨシヤでも滅びは止められなかった!!



歴代誌 ヨシヤの功績 歴二35:26~27

ヨシヤについてのその他の事柄、【主】の律法に記されているところに基づいた彼の誠実な行い、またその事績は、最初から最後まで、『イスラエルとユダの王の書』にまさしく記されている。

- ヨシヤが最も評価されたのは、主の律法に対する忠実さ、誠実な行い。





Ⅲ. まとめと適用

主に従い、行いを伴う信仰を生きよう

ガリラヤの丘

ヨシヤ王の生涯

- 1年目 …8歳で即位。
- 8年目 …16歳で主を求める。
- 12年目 …20歳から宮きよめを実行。建築献金を始める。
→建築資金を貯めるのに6年かかった!!
- 18年目 …26歳の時に、神殿の修復作業に着手。
律法の書を発見。過越の祭りを献げる。→最大の功績

(※この後12年間は記述なし)

- 31年目 …エジプトのネコと戦い、死去。39歳

ヨシヤ王の功績

■ 「【主】の**律法**に記されているところに基づいた彼の誠実な行い」

歴二35:26

- 発見された**律法**を聞き、悔い改め、忠実に従った。
國中を巡り、偶像礼拝を徹底して拭い去った。
律法が定めた通りに、過越のいけにえを主にささげた。
- 歴代の王の中でも、ヨシヤほどの信仰者はいなかった。
ヨシヤが高く評価されたのは、主の**律法**に対する忠実さ。
ヨシヤの信仰は、行いと一致していた。
→とことん主に忠実。常にすかさず実行。

ヨシヤの晩年の過ち

- 晩節を汚した王は少なくない。ヨシヤもその一人となった。
 - ➔ 18年目・26歳の過越の祭り以降、12年間は記載がない!!
- エジプト王ネコとの戦いに固執し、変装してまで出陣した。
 - ➔ バビロン捕囚は、ヒゼキヤの時代、イザヤを通して通告済み。
- アッシリア・エジプトの敗退とバビロンの台頭を阻止しようとする？
 - ➔ 変装して臨んだのは、主に背いている実感があったからだろう。
- 神の計画を変えようとしたヨシヤの傲慢が、破滅を招く結果に。

過越の祭りがヨシヤの最大の功績

■ 過越の祭りの起源は出エジプト。

➔ 最期の災いを過ぎ越すため、子羊を屠り、血を門柱と柱に塗るよう命じられた。

■ 過越の祭りが示すのは、メシア

➔ 子羊の犠牲と血は、キリストの十字架の贖い
種なしパンは、罪なきキリスト

**ヨシヤ最大の功績は、メシアの型である
過越の祭りを覚え、祝ったこと!!**



メシアこそ、終わりの時代の永遠の希望

■ ヨシヤにも、確定したバビロン捕囚の裁きは変えられなかったが、来たるべき**メシア**による救いが、**過越の祭り**によって示された。ダビデの系譜は必ず守られ、いつか必ず**メシア**が現れると!!

■ **世の終わりの裁き・大患難**が迫る今の時代の希望も**メシア**にある。**イエス・キリスト**は、十字架の贖いの業を成し遂げられた。信じた者は、永遠に神の所有とされている。**大患難時代**の最後、イスラエルの回心を経て**メシア**が再臨される。

■ ヨシヤが待ち望んだのは、**贖い**を成し遂げる救い主なる**メシア**。今、私たちが待ち望むべきは、**王の王、裁き主なる、再臨のメシア**

★ ヨシヤの行いで示した信仰に学ぼう ★

■ ただ主を信頼して聴き従い、行いをもって応答するよう求められる。信仰と行いは一致するのが当然。

食い違ふのは偽善者であり、主イエスが最も厳しく非難された者。

■ 行いが伴わずに、信仰的な言葉を吐くほど、罪深いことはない。語るべき証しがないなら、沈黙する方がはるかにましだ。

■ 日々の中で、主に聴き、従うことを第一としているだろうか。優先順位を明確に、最高の時間、労力、資金を、取り分けることから始めよう。具体的な一歩を、今日から踏み出そう。

ヤコブの手紙2章14～24節

信仰とは、**行い**が伴うもの。

イスラエルが身をもって学ばされた、律法が教える信仰の原則。

この当然の原則がなかなか理解できないのが異邦人の信者たち。

律法の原則からヤコブが教える、**行い**を伴う**信仰**を身に刻もう

ヤコブの手紙2章14～24節

私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に**行い**がないなら、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。

兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

同じように、信仰も**行い**が伴わないなら、それだけでは死んだものです。

ヤコブの手紙2章14～24節

しかし、「ある人には信仰があるが、ほかの人には行いがあります」と言う人がいるでしょう。行いのないあなたの信仰を私に見せてください。私は行いによって、自分の信仰をあなたに見せてあげます。

あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。

ああ愚かな人よ。あなたは、行いのない信仰が無益なことを知りたいのですか。

ヤコブの手紙2章14～24節

私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、行いによって義と認められたではありませんか。

あなたが見ているとおり、信仰がその行いととともに働き、信仰は行いによって完成されました。

「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことが分かるでしょう。

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

ちゅうじつ しゅ りっぽう き した しんこう まな
忠実に主の律法に聴き従った、ヨシヤの信仰に学びました。

しゅ もと しんこう おこな あか
主が求められる信仰は、行いをもって証しされるべきものです。

ちい ぐたいてき おこな わたし しゅ おうとう
小さくとも具体的な行いをもって、私は、主よ、あなたに応答します。

しゅ まえ せいじつ しんじつ あゆ もの
主の前に、誠実に、真実に歩む者としてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」